

2024年度 文学部聴講生

講義要項

(教育学専攻抜粋)

中央大学 文学部

2024.4 - 2025.3

科目名: 教育哲学

担当教員: 下司 晶

履修年度: 2024 学期: 後期

開講曜日時限: 月4

配当年次: 1~3年次配当

科目ナンバー: LE-ED1-N201

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 07:03:05 更新者: AA2130

更新日時: 2024-01-09 19:33:30

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

みなさんは教育が好きですか？
教育に不満はありませんか？
当たり前ですが、教育には、良い面も悪い面もあります。
教育は人を成長させますが、成績で人を選別したり、理不尽なルールを押しつけたりもします。

教育の良い面、悪い面。この両面から、教育について考えてみましょう。

(そのために、近代の教育思想とポストモダン思想を手がかりにしますが、その内容は授業で説明しますので、現段階ではわからなくてかまいません。)

科目目的

教育についての考え方(特に近代の教育思想と、ポストモダンの発想)の基礎を理解して、教育を考えることができるようになること。

到達目標

教育の良い面、悪い面の両面から、教育を深く考えることができるようになること。

授業計画と内容

授業計画と内容

- 第1回 不満があるから、教育を考える
- 第2回 教育の「悪口」を言ってみる(批判的思考)
- 第3回 そもそも、「教育」とは何だろうか
- 第4回 「子ども扱い」の良い面、悪い面
- 第5回 今はもう「子ども時代」はない？
- 第6回 学校は子どもと人を選別する
- 第7回 学校は不要なのではないか？
- 第8回 学校は軍隊だ
- 第9回 学校は監獄だ
- 第10回 教育は戦争の道具となる
- 第11回 なぜ、西洋の教育の方が「よく」みえるのか？
- 第12回 学校が普及することは、よいことなのだろうか？
- 第13回 もう一度、教育を前向きに考えてみる
- 第14回 あなたの理想の教育とは？

各回には、対応する思想・思想家やテキストがあるが、それは授業で伝える。
受講者の状況や要望を踏まえて順序や内容を変更することがある。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | |
|------|-----------------------|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 0% |
| レポート | 50% 教育を深く思考できているかどうか。 |
| 平常点 | 50% 教育を深く思考できているかどうか。 |
| その他 | 0% |

成績評価の方法・基準(備考)

授業の進行によって、上記の評価の割合は変更される可能性があります。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ✓ ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト（授業・レポートで使用します）
下司 晶『教育思想のポストモダン——戦後教育学を超えて』勁草書房、2016年。

参考文献
現代思想に関する基礎知識を得られる入門書が手元にあった方がよいでしょう。
一例として、斎藤 哲也『試験に出る現代思想』NHK出版新、2022年など。
もちろん、他の本でもかまいません。

オフィスアワー

その他特記事項

- ①受講生の興味や理解度に応じて、毎回の内容や重点の置き方、順序などを変更する場合があります。
- ②新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したため、授業資料のmanabaへのアップや翌週以降のレジュメ配布はいたしません。欠席のために生じる理解の不足には対応できませんので、教科書や参考書などを用いて自習して下さい。

参考URL

備考

科目名： 教育史**担当教員： 高木 雅史**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限： 火5

配当年次：1～3年次配当

科目ナンバー：LE-ED1-N202

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:03:06 更新者：AA1338

更新日時：2023-12-28 10:14:43

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業では、近代日本における学校教育の普及・拡大（特に就学率・進学率の上昇等にみられる量的拡大）の様相を踏まえたうえで、時期区分毎の質的変容の歴史的経過をたどる（必要に応じて近世も扱う）。学校教育の普及・拡大の様相は家族や地域社会（都市・農村）のあり方の変化とも大きく関係しており、それらの相互関連に留意しながら検討する。全体を通して、現代日本の教育のありようを歴史的視点から浮かびあがらせ、今後の方向性を描き出したい。

科目目的

この授業は、近代日本における学校教育の普及・拡大の様相を理解し、今日の教育状況を分析するにあたって歴史的視点を踏まえて考察できるようになることを目的としている。

到達目標

今日の学校・家庭・地域における教育状況について、それらが関わり合いながら進展してきた様相を歴史的経緯を踏まえて説明できるようになること。

授業計画と内容

- 1 授業の目標と進め方について
- 2 1870～1880年代(1)：近代学校教育の誕生
- 3 1870～1880年代(2)：近世教育からの変化
- 4 1890年代：天皇制教育体制の確立
- 5 1900～1910年代前半：天皇制教育体制の展開
- 6 1910年代後半～20年代(1)：都市新中間層・農村・都市スラムの子ども
- 7 1910年代後半～20年代(2)：大正自由教育の興隆と展開
- 8 1930～40年代前半(1)：戦時体制下の学校と子ども
- 9 1930～40年代前半(2)：総力戦と教育
- 10 1940年代後半～50年代(1)：戦後教育の出發
- 11 1940年代後半～50年代(2)：戦後における新教育の実践
- 12 1960～70年代前半：高度経済成長の開始と教育の量的拡大
- 13 1970年代後半～90年代：高度経済成長後の「教育問題」への関心の高まり
- 14 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | | |
|------|-----|------------------------------------|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 75% | 設定した問題について、授業内容を踏まえたうえで論理的に説明できるか。 |
| レポート | 0% | |
| 平常点 | 25% | 毎回のリアクションペーパーあるいはミニ課題に基づいて評価する。 |

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

〈テキスト〉：片桐芳雄・木村元編著『教育から見る日本の社会と歴史（第2版）』八千代出版、2017年3月、2,400円（+税）
〔ISBN：978-4-8429-1698-9〕

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 教育行政学**担当教員： 池田 賢市**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限： 月5

配当年次：1～3年次配当

科目ナンバー：LE-ED1-N203

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:03:06 更新者：AA0532

更新日時：2024-01-05 21:16:05

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

教育行政の理解は、教育に関する法律の理解が前提となる。この授業では、教育基本法や学校教育法等の法令の内容を、具体的な事例と結び付けながら学習していく。
4回程度、その授業時間内で書ける程度のテーマを出すので、それに簡単でよいので応えてもらう予定。その課題内容については、その都度支持する。また、授業時間内で2～3回、法令の内容理解についての確認テスト(10分程度でできるもの)を実施する予定。

科目目的

教育への権利は人間にとって基本的人権であることを理解し、その観点から具体的な教育課題をみていくことができること、また、学校を中心とした教育に関する行政について、印象論で語るのではなく、それが法令に基づいていることを理解していくことを目的とする。

到達目標

教育に関するさまざまな制度の存在意義やその問題点を、具体的な法令をあげながら説明できることを目指す。

授業計画と内容

- 1 イントロダクション／テキスト・参考文献等の紹介
- 2 義務教育制度の歴史および憲法・教育基本法の意義
- 3 教育に関する国際条約の意義
- 4 義務・無償・中立の意義
- 5 義務教育の機会均等の考え方について
- 6 教育の政治的中立性および教科書行政について
- 7 公務員としての教員の地位
- 8 児童生徒の懲戒等について
- 9 保健・健康に関する規定
- 10 障害児の教育権と教育行政(インクルーシブ教育の課題を含む)
- 11 外国人児童生徒の教育保障
- 12 教育委員会制度の課題
- 13 諸外国の教育行政・政策(OECDの教育観を含む)
- 14 日本の教育改革の動向とまとめ
(なお、現実の教育改革の動き等によっては、順番を変更する可能性もある。)

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業では毎回、教育に関する具体的な法令を解説していく。扱う法令(条文)については、事前にmanabaで指示するので、当日の授業時間までに、必ず調べ、その条文を見ながら授業が受けられる状態にしておくこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 30% 法令の理解度について2～3回の確認テストを行う。

期末試験 50% 教育行政・制度の特徴を根拠づけている法令等を正しく指摘できるかどうか、期末試験を行う。

| | | |
|------|-----|---|
| レポート | 0% | |
| 平常点 | 20% | 4回程度、授業内容に関連したテーマを設定するので、それについての自分の考え等を書いてもらう。その提出状況と内容を評価する。 |
| その他 | 0% | |

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストおよび参考文献については、授業中に紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 教育社会学**担当教員： 眞鍋 倫子**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：水3

配当年次：1～3年次配当

科目ナンバー：LE-ED1-N204

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:03:06 更新者：AA0619

更新日時：2023-12-25 20:18:01

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

教育は社会の中で、どのような役割を果たしているのでしょうか。
 教育にかかわる問題はどのようにとらえたらよいのでしょうか。
 教育社会学は、教育について、「当たり前」と思われていることを問い直し、その背景や成り立ち、役割といった様々な側面から「教育」をとらえていく学問です。
 この授業では、教育にかかわるさまざまな現象について、教育社会学の立場から理解することを目指します。

科目目的

現代の教育の役割や問題について、教育社会学ではそれらの役割や知識をどのようにとらえ、どのように研究がなされているかを理解します。

到達目標

学校教育のありかたや教育にかかわる問題について、教育社会学の見方や、概念、議論を理解し、実際にそれらを使って説明できるようになることを目標とします。

授業計画と内容

- 第1回：イントロダクション：教育社会学とは
- 第2回：教育の機能
- 第3回：教育の普及と拡大：学校化社会
- 第4回：教育の普及と拡大：高学歴化
- 第4回：教育を通じた選抜
- 第5回：教育格差
- 第6回：教育格差生成のメカニズム
- 第7回：教育と家族・地域
- 第8回：教育における知識とカリキュラム
- 第9回：教師と生徒
- 第10回：学校の問題：いじめ
- 第11回：学校の問題：不登校
- 第12回：教育から社会への移行
- 第13回：教育と社会的包摂
- 第14回：まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0% なし
- 期末試験 50% 最終回のテスト

レポート 50% manabaでの課題提出
平常点 0%
その他 0% なし

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- ✓ 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- (テキスト) 配布資料を使用します。
(参考文献)
・相澤真一他 2023 『これからの教育社会学』有斐閣
・柳治男 2005 『学級の歴史学』講談社
・近藤博之・岩井八郎 2015 『教育の社会学』放送大学教材
その他、授業中に適宜提示します。

オフィスアワー

その他特記事項

特になし

参考URL

備考

科目名： 教育方法学**担当教員： 濱谷 佳奈**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限： 木2

配当年次：1～3年次配当

科目ナンバー： LE-ED1-N205

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:03:07 更新者： AA2232

更新日時： 2024-01-08 20:27:41

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本授業の前半では、教育方法の歴史的展開について、近代社会成立以降の欧米および日本における理論と実践を中心に検討する。

後半では、教育方法学の今日的課題について、非認知能力と学習、インクルーシブ教育、学力格差の是正等の各側面から考察したうえで、探究的な学習活動のプランニングを行い、作品発表と相互検討をおこなう。

科目目的

本科目は、教育方法学に関する基礎的理解を深めることによって、教えることと学ぶことへの問いをめぐる理論的かつ実践的な考察を行うことを目的とする。
とりわけ、実際に探究的な学習活動のプランニングを行うことを通して、学習を支援する主体としての資質について検討する。

到達目標

1. 教育方法の歴史的展開を検討することによって、教育方法の基礎的概念を理解することができる。
2. 現代の教育方法をめぐる諸課題について問いをたて、多角的に検討することができる。
3. 探究的な学習活動のプランニングを通して、どうすれば質の高い学びを保障できるのかについて理解を深めることができる。

授業計画と内容

第1回：オリエンテーションー本授業のねらいと概要ー

第2回：授業の歴史1ーヨーロッパー

第3回：授業の歴史2ー日本ー

第4回：子ども観の歴史的変遷と教育方法

第5回：教えることと学ぶこと

第6回：非認知能力と学習

第7回：思考力・判断力・表現力の育成

第8回：教師に求められる力量

第9回：インクルーシブ教育の現状と課題

第10回：学力格差是正の取り組み

第11回：探究的な学習活動の意義と課題

第12回：探究的な学習活動のプランニング

第13回：探究的な学習活動プランの相互検討

第14回：総括ー教授学の新たなモデルをめぐって

【注意】

テーマの順番を入れ替える可能性があります。また、ひとつのテーマを複数回かけて行う場合があります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- ・毎回リアクション・ペーパーの提出が必要となる。
- ・探究的な学習活動のプランニングにおいては、授業時間外の学修が必要となる。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | | |
|------|-----|---|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 0% | |
| レポート | 30% | 指定されたテーマについて最終レポートを提出する。テーマの理解ができているか。自己の考察の表現ができているか。資料を丁寧に読み取れているかを基準とする。 ※manabaにてデータ提出する。 |
| 平常点 | 30% | 毎回のリアクション・ペーパーおよび授業での発表・ディスカッションへの参加を評価する。 |
| その他 | 40% | 課題に基づいて「教材」「授業プラン」などの作品を作成する。制作物は、レポートとして提出するほか、授業で発表する。構想・制作・実演の丁寧さ、完成度、オリジナリティを評価する。 ※manabaにてデータ提出する。 |

成績評価の方法・基準(備考)

- ・すべての課題の評価を合計して60点以上が合格となります。ただし、「レポート」「平常点」「その他」の項目で、いずれか1つでも0点があった場合は、不合格となります。欠席回数5回以上の場合は平常点が0点となります。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaを用いる。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】

特に指定しない。プリントを適宜配布する。

【参考文献】

- ・奈須正裕 編著『ポスト・コロナショックの授業づくり』東洋館出版社、2020年。
- ・志水 宏吉 監修、ハヤシザキ カズヒコ・園山 大祐・Sim Choon Kiat 編著『世界のしんどい学校：東アジアとヨーロッパにみる学力格差是正の取り組み（シリーズ・学力格差 第4巻 国際編）』明石書店、2019年。
- ・ヒルベルト・マイヤー 著、原田信之 編訳『授業方法・技術と実践理念—授業構造の解明のために』北大路書房、2004年。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：生涯教育論**担当教員：丹間 康仁**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：金3

配当年次：1～3年次配当

科目ナンバー：LE-ED1-N206

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:03:07 更新者：AD0079

更新日時：2024-01-09 10:56:33

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業では、生涯学習と社会教育の本質を踏まえて、社会とかかわる学びのありようについて学修する。個人の趣味・教養に限らず、地域、福祉、労働、子育てにかかわる幅広い学習の実践を捉える。生涯学習と社会教育の歴史、理論、政策、法制的観点にもとづき生涯教育論について講義する。個人の自助努力のみでは解決しえない生活課題や地域課題がからみあう現代における生涯教育論の意義について議論する。

科目目的

生涯教育をめぐる理論的枠組みを理解し、歴史、政策、実践の展開について見識を広げる。

到達目標

- ①人間の学習と教育の営みを、生涯にわたって捉える枠組みを獲得する。
- ②生涯学習と社会教育の意義を基礎的な理論に基づいて適切に説明できる。
- ③生涯学習と社会教育について、自らの理解を論理的に表現することができる。

授業計画と内容

- 第1回学校教育の相対化と生涯学習への視野（導入）
- 第2回学びなおし・学びほぐしと成人教育論
- 第3回日本における生涯学習政策の動向と課題
- 第4回地域づくりに果たす社会教育施設の役割
- 第5回市民の生涯学習を支える公民館の取組
- 第6回市民の生涯学習を支える図書館の取組
- 第7回市民の生涯学習を支える博物館の取組
- 第8回市民のソーシャル・キャピタルと環境醸成
- 第9回学校・家庭・地域の連携・協働と学びあい
- 第10回地域文化の創造と継承と市民の学習
- 第11回子どもの貧困問題と市民活動
- 第12回非営利セクターによる社会課題の解決
- 第13回コミュニティにおける対話と学習環境デザイン
- 第14回生涯学習の自由・主体性と教育（到達度確認）

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- ①教科書の指定した章を、次の回までに読んで、内容を理解したうえで授業に参加する。授業冒頭では、グループに分かれたうえで、クイズを用いて理解度を確かめ合う。
- ②指定した期間内に、身近な地域における社会教育施設を訪問して見学を実施する。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | | |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 50% | ・授業の到達目標に基づき、筆記試験として実施する。筆記試験には指定の教科書のみ持ち込み可（ただし、紙媒体に限る。電子書籍版は持ち込み不可）。 |
| レポート | 0% | |

- 平常点 0%
- その他 50% ・各回授業でのクイズやふりかえりの得点（manabaより提出）：30%
・社会教育施設の見学への参画（同上）：10%
・ディスカッションへの貢献：10%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- ✓ 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
 - ✓ グループワーク
プレゼンテーション
 - ✓ 実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaを通じての課題の提示を行います。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

次のテキスト（指定の教科書）を、第2回講義までに準備すること。
◎荻野亮吾・丹間康仁編『地域教育経営論—学び続けられる地域社会のデザイン—』大学教育出版、2022年（ISBN：978-4-86692-223-2）

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

- ①授業担当者の研究情報（<https://researchmap.jp/tamma>）
- ②指定の教科書に関する情報（<https://www.kyoiku.co.jp/00search/book-item.html?pk=1131>）

備考

科目名： 発達教育学

担当教員： 下司 晶

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 月4

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-ED2-N301

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:03:07

更新者： AA2130

更新日時： 2024-01-08 16:45:24

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

本講義では、フロイトと精神分析の観点から、発達と人間形成について考えます。授業では、映画やアニメといった視聴覚教材の分析を通して、テキスト『フロイトと教育』に登場する精神分析の基礎概念を読み解いていきます。例えば、以下の用語です。トラウマとPTSD、エディプス・コンプレックス、アイデンティティ、愛着、転移、など。

科目目的

基礎的な発達理論を用いて、教育や人間形成について思考ができるようになること。特に、フロイト理論、精神分析理論を用いることができるようになること。

到達目標

フロイト派の精神分析理論をはじめとする、心に関する理論を用いて思考が出来るようになること。教育だけでなく、小説や映画、アニメなどを発達や人間形成という観点から「深読み」出来るようになること。

授業計画と内容

- 第1回 オリエンテーション - 発達から教育を考えるとは
- 第2回 なぜフロイトを読むのか
- 第3回 トラウマとPTSD、そしてトラウマの克服
- 第4回 フロイト思想の全体像 (概観)
- 第5回 父-母-子の関係 - エディプス・コンプレックス
- 第6回 アイデンティティとモラトリアム - 自我同一性の確立
- 第7回 転移性の愛 - なぜ親に似た人を愛するのか?
- 第8回 ナルシシズム - 自己愛は不可欠である
- 第9回 自分の心はどこまで集団の影響を受けているのか?
- 第10回 不気味なもの、気持ちが悪いもの、それはなぜ?
- 第11回 ヤマアラシのジレンマ - なぜ親しい者同士が傷つけあってしまうのか?
- 第12回 快感原則とその彼岸、死の欲動
- 第13回 未解決の問題としての教育
- 第14回 フロイトと教育 (まとめ)

ただし、受講生の反応を見ながら、順序や内容を変更することがある。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | |
|------|---------------------------------------|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 0% |
| レポート | 50% 人間形成に関する理論が理解できているかどうか。 |
| 平常点 | 50% コメントやミニレポートなどの課題にきちんと取り組んでいるかどうか。 |
| その他 | 0% |

成績評価の方法・基準(備考)

授業の進行や学位性の受講状況によって、評価の割合は変化することがあります。
(ついでに言えば、平常点と最終レポートの出来は比例することが多いです。)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト (授業・レポートで用いる)
デボラ・P・ブリッツマン『フロイトと教育』下司 晶・須川公央(監訳)、勁草書房、2022年

参考文献 (上記理解の手がかりに)
小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』(講談社現代新書) 講談社 2002年
(他の本でもよい。フロイトと精神分析に関する知識がある程度あれば不要。)

オフィスアワー

その他特記事項

- ①受講生の興味や理解度に応じて、毎回の内容や重点の置き方、順序などを変更する場合があります。
- ②新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したため、授業資料のmanabaへのアップや翌週以降にレジュメを配布はいたしません。欠席のために生じる理解の不足には対応できませんので、教科書や参考書などを用いて自習して下さい。

参考URL

科目名： 比較教育社会史**担当教員： 高木 雅史**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限： 火5

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N302

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:03:08 更新者：AA1338

更新日時：2023-12-28 10:25:09

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

教育という営みは、政治・経済・社会の幅広い領域にわたる社会事象と密接に結びついて成り立っている。よって、現代日本の教育のありようを理解するためには、さまざまな社会事象との関係に着目し、歴史的・社会的文脈のなかに位置づけて検討することが必要となる。この授業では、〈学歴主義の制度化と展開〉〈近代家族の誕生と変容〉〈生命科学の成立と進展〉という3つの社会的事象と教育との関係性について各々の歴史的変遷をたどり、適宜、諸外国と比較しながら、近代以降における日本の教育の特質を浮き彫りにしたい。

科目目的

この授業は、〈学歴主義の制度化と展開〉〈近代家族の誕生と変容〉〈生命科学の成立と進展〉という3つの社会的事象に関する考察を踏まえて、近代以降における教育の特質の歴史的変化を、広い視野から理解できるようになることを目的としている。

到達目標

〈学歴主義の制度化と展開〉〈近代家族の誕生と変容〉〈生命科学の成立と進展〉という3つの社会的事象に関する歴史的経緯を理解し、その相互関連を踏まえつつ、今後のあり方を展望できるようになること。

授業計画と内容

- 1 授業の目標と進め方について
- 2 学歴主義の制度化と展開(1)：学歴主義の歴史①戦前
- 3 学歴主義の制度化と展開(2)：学歴主義の歴史②戦後
- 4 学歴主義の制度化と展開(3)：現代における大学教育の有効性
- 5 学歴主義の制度化と展開(4)：フリーター・ニート対策(日本とイギリス)
- 6 近代家族の誕生と変容(1)：少子化の歴史的変遷と現状／家族－学校関係の社会史①
- 7 近代家族の誕生と変容(2)：家族－学校関係の社会史②高度経済成長以前
- 8 近代家族の誕生と変容(3)：家族－学校関係の社会史③高度経済成長以後
- 9 近代家族の誕生と変容(4)：就労・子育て支援(日本とデンマーク・フランス)
- 10 近代家族の誕生と変容(5)：「三歳児神話」の受容にみる日本の特質と課題
- 11 生命科学の成立と進展(1)：優生学の歴史と出生前診断(日本とイギリス・ドイツ)
- 12 生命科学の成立と進展(2)：国民優生法から優生保護法・母体保護法へ
- 13 生命科学の成立と進展(3)：生命科学の進展が教育にもたらす課題
- 14 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 80% 【客観問題】(穴埋め・選択肢等)：50% (試験配点中の内訳)
評価基準：基礎的用語・概念・事実を理解しているか。

【論述問題】：50%（試験配点中の内訳）

評価基準：設定した問題について、授業内容を踏まえたうえで論理的に説明できるか。

レポート 0%

平常点 20% 毎回のリアクションペーパーあるいはミニ課題（2回程度）に基づいて評価する。

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、配信する資料に基づいて授業を行う。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 教育制度学**担当教員： 池田 賢市**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限： 月5

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N303

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:03:08 更新者：AA0532

更新日時：2024-01-05 21:23:40

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

学校制度を支えている原理および法規定について学習したうえで、今日的な制度問題について考えていく。また、国際的な教育情勢も学習の対象としていく。最終的には、自分の考える課題・問題に対応した教育改革案を提出してもらう。

科目目的

公教育制度は、教育の目的を実現するために、公の規定で定められた組織（人と物との体系的な配置）である。この講義では、この定義を踏まえ、学校教育制度に主な焦点を当て、その法制およびさまざまな教育改革(案)について検討し、権利保障としての教育制度のあり方の今日の問題を明らかにしていく。

到達目標

- ・教育法の法体系について理解し、活用することができる
- ・各教育段階の学校制度の構成要素の概要を説明することができる
- ・現在の各教育段階の学校制度の状況について、歴史的観点から説明することができる
- ・各学校が関連した学校系統の成立について歴史的に説明することができる
- ・学校体系の諸類型について歴史的に説明すると同時に、それぞれの特性を指摘することができる

授業計画と内容

- 1 教育制度の定義と考え方
- 2 義務教育制度の原理
- 3 学校体系(系統)構築の原理
- 4 学力をめぐる諸課題
- 5 義務教育制度の今日的課題(不登校問題、教育機会確保法の問題点を含む)
- 6 入試制度をめぐる問題
- 7 高等教育(大学等)制度の歴史と課題
- 8 特別支援教育の法制と歴史的検討及び国際比較(インクルーシブ教育を含む)
- 9 学習指導要領の変遷(含. 道徳教育の教科化の課題)
- 10 校則の見直し問題と子どもの権利
- 11 教員養成制度の法制と課題
- 12 日本における教育改革(案)の検討
- 13 国際条約にみる教育制度上の課題
- 14 まとめ・到達度の確認

なお、その時々々の新聞報道等、実際の教育改革の動きも授業に組み入れていくので、上記の順番は変更することもある。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | | |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 50% | 教育制度に関する知識等、到達目標に達しているかどうかを確認する。この試験が60%の得点未満の場合には、平常点とレポートがすべて提出されていても、単位は認められない。 |

| | | |
|------|-----|--|
| レポート | 30% | 期末に「私の教育改革案」というレポートを提出してもらう。書き方等については授業中に指示する。 |
| 平常点 | 20% | 課題を4回程度出すので、その提出状況と内容の評価する。なお、提出は、授業時間内を原則とするが、課題によっては一週間後の提出という場合もある。 |
| その他 | 0% | |

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

はい

- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト: 『学びの本質を解きほぐす』(池田賢市著、新泉社、2021年刊、2000円+税)

参考文献は随時授業時間内で紹介する。なお、次のものはあらかじめ参考文献として挙げておく。

『教育の法と制度』(藤井穂高編著、ミネルヴァ書房、2018年刊、2200円+税)。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 学校社会学

担当教員： 越川 葉子

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 月3

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-ED2-N304

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:03:09 更新者： AD0670

更新日時： 2024-01-06 18:13:38

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

いじめや不登校、学力低下などの学校問題は、メディアで取り上げられ論議されるたびに、実際の教育のあり方に大きな影響を与えてきました。この授業では、学校のあるべき姿を論じるだけでなく、実際の教育の姿を客観視することから学習していきます。

科目目的

学校をフィールドとした、社会学研究の基礎知識をえます

到達目標

学校にかかわる教育社会学のキーワードを学習します

授業計画と内容

授業の展開

- 第1回 オリエンテーション：授業の受け方・進め方について
- 第2回 いじめ問題への視角：「事実」とは何か
- 第3回 メディア報道による「事実」の構成①：新聞報道
- 第4回 メディア報道による「事実」の構成②：テレビ報道
- 第5回 メディア報道による「事実」の構成③：マスメディアにおける「社会問題化」の方法
- 第6回 「事実」認定の方法と論理：調査報告書と判決文を読む
- 第7回 中間のまとめと補論
- 第8回 当事者経験への接近①：遺族の経験
- 第9回 当事者経験への接近②：加害者の経験
- 第10回 当事者経験への接近③：担任・生徒の語り
- 第11回 囚われからの解放①：未完のいじめ自殺
- 第12回 囚われからの解放②：いじめ防止対策推進法下の学校
- 第13回 囚われからの解放③：「いじめ問題」の解決とは
- 第14回 全体のまとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | |
|------|----------------|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 0% |
| レポート | 50% 最終レポート |
| 平常点 | 50% 出席と授業毎の小課題 |

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

- ・3回目以降の講義については、当該授業の回で扱う文献の内容を読んだ上で、その内容に関するコメントを事前にmanabaより記入・提出してもらうことになります。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- ✓ タブレット端末
- その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- (テキスト)
- 北澤毅・間山広朗編, 2021年, 『囚われのいじめ問題 : 未完の天津市中学生自殺事件』岩波書店。ISBN:9784000614887
- (参考図書)
- 授業の進行に応じて、適宜指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

- ・第2回目以降は、原則、テキストの各章に沿って講義を進めます。各自でテキストを用意して受講してください。
- ・テキストや入手可能な公開資料を繰り返し読み込むことで、講義で扱う事例の理解がさらに深まるものと思います。

参考URL

備考

科目名： 多文化教育学

担当教員： 丸山 英樹

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 木5

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-ED2-N305

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:03:09 更新者： AD1731

更新日時： 2023-12-29 23:50:12

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

日本語での授業であるが、用いる資料は英語のものも多く、ある程度の英語運用能力が求められる。
This class is basically in Japanese, but some materials are in English.

授業の概要

この授業ではグローバル・ローカル課題を踏まえ2050年の社会を受講生が想像し、その時に求められる教育を3つの設問（何を続け、何をやめて、何を再構築するか？）に答える形で表現する。そのために、受講生はUNESCOが2021年に刊行した報告書『Reimagining Our Futures Together』のチャプターを毎週一つずつ講読し、扱われる内容の背景や状況に関する補足資料もとに議論を行う。報告書と議論の内容から、受講生たちは人種・民族、社会階層、ジェンダー、性的指向性、障がいなどの多様な人々の文化背景について調べ、基礎的な理論と現実を理解する。またグローバル課題がローカル課題と関連しており、特に持続可能な未来に向けて教育がいかなる役割・可能性を持ちうるのかを把握する。

科目目的

2050年に生きる社会の中堅としての自身を受講生は想定し、教育を学校だけのものとせず、自身と他者がサステイナブルに生きることができる多文化社会を具体的に想像することをめざす。

到達目標

受講生は、次のことができるようになる：

- 1) グローバルおよびローカル課題としての教育を理解すること
- 2) 未来社会が多文化であることを前提とした教育課題を議論すること
- 3) 自分の考える2050年における教育を表現する

授業計画と内容

1. 導入：本講義の目的と評価の確認。教材の手配
(宿題 UNESCO報告書「概要」を通読し、要点と質問を用意する)
2. 概要：教育のための新たな社会契約・基盤となる原理
(宿題 同「はじめに」同上)
3. はじめに：人類課題としての教育
(宿題 同「第1章」同上)
4. 第1章：より公平な教育の未来に向けて
(宿題 同「第2章」同上)
5. 第2章：破壊的なものたちと生じつつある変容
(宿題 同「第3章」同上)
6. 第3章：協力と連帯の教育学
(宿題 同「第4章」同上)
7. 第4章：カリキュラムと進化する知識コモンズ
(宿題 同「第5章」同上)
8. 第5章：教師の変革的な取り組み
(宿題 同「第6章」同上)
9. 第6章：安全性を保ち、変容する学校
(宿題 同「第7章」同上)
10. 第7章：時間と空間を超えた教育
(宿題 同「第8章」同上)
11. 第8章：研究・革新の呼びかけ
(宿題 同「第9章」同上)
12. 第9章：グローバルな連帯と国際協力を呼びかける
(宿題 同「おわりに」同上)
13. おわりに：提案と継続的行動
14. 発表：2050年の社会における教育について、グローバル・ローカル課題を踏まえて表現（上智大学との合同もありうる）

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出

その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

ユネスコの報告書 (UNESCO (2021), Reimagining Our Futures Together) の指定チャプターを毎週必ず通読し、授業内での議論に向けて準備しておくこと。教材となる報告書は初回で共有する。毎週の議論では、背景情報となる追加資料を適時用いるので、必要に応じて事前・事後に通読しておくこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | |
|------|-----|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 0% |
| レポート | 0% |
| 平常点 | 70% |
| その他 | 30% |

A: 授業に出席し(i)、宿題によって準備し(ii)、授業内グループディスカッションに貢献ができ(iii)、省察的・批判的コメントを表現(iv)した
B: (i)～(iv)のいずれか1つが抜けている
C: (i)～(iv)のいずれか2つが抜けている
D: (i)～(iv)のいずれか3つが抜けている
E: (i)～(iv)のいずれもが抜けている

発表
A: グローバル課題(i)とローカル課題(ii)を捉えた上で、2050年の社会における教育の課題(iii)と可能性(iv)を表現できている
B: (i)～(iv)のいずれか1つが抜けている
C: (i)～(iv)のいずれか2つが抜けている
D: (i)～(iv)のいずれか3つが抜けている
E: (i)～(iv)のいずれもが抜けている

成績評価の方法・基準(備考)

成績評価の割合で示すとおり、出席しない場合、いずれも自動的にE判定となる。出席は第2～14回で取る予定である。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
- ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

受講者数によるが、オンラインツールを用いた双方向型の講義パートが含まれる。受講生はパソコン・タブレット・スマホを頻繁に用いる必要がある。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

1. アギヨン, P., アントニン, C., ブネル, S. (2022) 『創造的破壊の力』東洋経済新報社
2. ウルリッヒ, B., ヴィッセン, M. (2021) 『地球を壊す暮らし方』(中村健吾・斎藤幸平監訳) 岩波書店
3. 英『エコノミスト』編集部 (2012) 『2050年の世界』(東江一紀・峯村利哉訳) 文藝春秋
4. 太田美幸・丸山英樹編『ノンフォーマル教育の可能性』増補改訂版、新評論
5. 北村友人・佐藤真久・佐藤学編『SDGs時代の教育——すべての人に質の高い学びの機会を』学文社
6. 工藤尚悟 (2022) 『私たちのサステイナビリティ：まもり、つくり、次世代につなげる』岩波ジュニア新書
7. サイド, M. (2021) 『多様性の科学』ディスカバー・トゥエンティワン
8. 佐藤一子ら (2022) 『共生への学びを拓く：SDGsとグローバルな学び』エイデル研究所
9. タレブ, N.N. (2017) 『反脆弱性』上下 (望月衛・千葉敏生訳) ダイヤモンド社
10. ドレングソン, A.・井上有一編 (2001) 『ディープ・エコロジー——生き方から考える環境の思想』昭和堂
11. ドーリング, D. (2022) 『Slowdown：減速する素晴らしい世界』(遠藤真美訳) 東洋経済新報社
12. ハイト, J. & ルキアノフ, G. (2022) 『傷つきやすいアメリカの大学生たち』(西川由紀子訳) 草思社
13. ピースタ, G. J. J. (2016) 『よい教育とはなにか——倫理・政治・民主主義』(藤井啓之・玉木博章訳) 白澤社
14. 広井良典 (2019) 『人口減少社会のデザイン』東洋経済新報社
15. ブリックカー, D., イビットソン, J. (2020) 『2050年 世界人口大減少』(倉田幸信訳) 文藝春秋
16. ブリントン, M. C. (2022) 『縛られる日本人——人口減少をもたらす「規範」を打ち破れるか』中公新書
17. ベイトソン, G. (2000) 『精神の生態学』(佐藤良明訳) 新思索社
18. マクレイ, H. (2023) 『2050年の世界：見えない未来の考え方』(遠藤真美訳) 日本経済新聞出版
19. 丸山英樹 (2023) 「ESDの深い次元」佐久間亜紀ら編『教育学年報』14: 81-101.
20. 丸山英樹 (2024) 「ESD 3.0で2050年の教育と社会を想像する」『比較教育学研究』68: 138-150.
21. ラワース, K. (2018) 『ドーナツ経済学が世界を救う』(黒輪篤嗣訳) 河出書房新社
22. リフキン, J. (2023) 『レジリエンスの時代』(柴田裕之訳) 集英社
23. UNESCO (2021). Reimagining Our Futures Together: A new social contract for education, Paris, UNESCO.

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：キャリア教育論**担当教員：眞鍋 倫子**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：水3

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N306

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:03:09 更新者：AA0619

更新日時：2023-12-25 21:28:24

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業では、若者をとりまく社会状況や労働市場の変化と、日本におけるキャリア教育政策とを照らし合わせることで、現状のキャリア教育やキャリア形成支援の特質と課題を議論します。
さらに、学校その他の場における実践や、関連する議論や政策的動向などについても紹介します。
これらの議論を通して、若者が社会の一員として生きていくために必要なキャリア教育・キャリア形成支援とはなにか、再考します。
授業計画として下記の内容を考えていますが、受講性の問題関心に対応して若干変更する場合があります。

科目目的

キャリア教育について、背景や政策、実践までを把握しつつ、その課題を理解する

到達目標

キャリア教育の背景を理解し、制度や実践を整理し、自身の考えを述べられるようになる。

授業計画と内容

- 第1回：イントロダクション “キャリア”とは何か
- 第2回：社会の変化と若者のキャリア (1) 技術の発展
- 第3回：社会の変化と若者のキャリア (2) グローバリゼーション
- 第4回：社会の変化と若者のキャリア (3) 脱工業化社会
- 第5回：日本の労働市場(1)メンバーシップ型雇用とジョブ型雇用
- 第6回：日本の労働市場(2)新規学卒一括採用の歴史と課題
- 第7回：日本の労働市場(3)非正規化と初期キャリアにおける困難
- 第8回：日本におけるキャリア教育：生徒指導・進路指導の変遷
- 第9回：日本におけるキャリア教育政策の展開
- 第10回：日本におけるキャリア教育の実践
- 第11回：キャリア教育の国際比較①アメリカ・イギリス
- 第12回：キャリア教育の国際比較②フランス・ドイツ
- 第13回：日本のキャリア教育の特徴と課題
- 第14回：まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業中に提示した課題および授業へのコメントを提出してもらいます。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | |
|------|--------------------|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 0% |
| レポート | 40% 最終レポート |
| 平常点 | 60% 毎回の課題と授業へのコメント |
| その他 | 0% |

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- ✓ 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaにて資料配布や課題提出をを求めます。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業中に提示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 社会教育概論(1)

担当教員: 眞鍋 倫子

履修年度: 2024 学期: 前期

開講曜日時限: 木2

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-ED2-N401

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 07:03:09 更新者: AA0619

更新日時: 2024-01-30 17:08:15

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

生涯学習における社会教育と、社会教育行政の役割について基礎的な理解を得るとともに、さまざまな施設の特徴と施設における実践を取り上げて紹介する。

科目目的

社会教育の歴史的展開および法制・財政の点から現在の社会教育の状況を理解する

到達目標

社会教育の歴史および政策的展開を理解する。実践の背景にある制度の問題などの基礎を理解し、自身の考えを述べられるようになる。

授業計画と内容

- 第1回: ガイダンス・社会教育とは
- 第2回: 社会教育の歴史
- 第3回: 社会教育の法制度 (1)
- 第4回: 社会教育の法制度 (2)
- 第5回: 社会教育計画・行財政
- 第6回: 社会教育施設の役割と課題①公民館
- 第7回: 社会教育施設の役割と課題②図書館
- 第8回: 社会教育施設の役割と課題③博物館
- 第9回: 発達段階と学習支援 成人の学習支援を理解する
- 第10回: 社会教育の課題①生涯学習政策への転換
- 第11回: 社会教育の課題②デジタル社会と社会教育
- 第12回: 社会教育の課題③家庭・学校との連携
- 第13回: 社会教育の課題④社会教育職員問題
- 第14回: まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

施設への訪問レポートおよび毎回の授業から課題を提示します。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | |
|------|---------------------|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 0% |
| レポート | 60% 最終レポートおよび施設レポート |
| 平常点 | 40% 授業中の課題や授業へのコメント |
| その他 | 0% |

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- ✓ 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

授業中に課題を提示し、manabaを通じて提出を行う。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業中に提示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 社会教育概論(2)

担当教員: 岩松 真紀

履修年度: 2024 学期: 後期

開講曜日時限: 水2

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-ED2-N402

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 07:03:10 更新者: AD0483

更新日時: 2024-01-09 17:49:51

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

多様な実践や活動の事例を通して、学校教育とは違う社会教育ならではの、学習内容や学習過程、学習支援の方法等について学ぶ。

科目目的

基礎を学び、具体的な事例にふれることで、社会教育・ 涯学習への理解を深める。教育についての幅広い見方や考え方を持つ。

到達目標

社会教育についての専門的学識と幅広い教養を併せ持つことにより、複眼的に思考し、多様な社会に柔軟に対応することができるようになる。卒業後の らの仕事、これからの自身の社会教育活動や地域活動に、学んだことを活かすことができる を に着ける。

授業計画と内容

1. イントロダクション
2. 社会教育の理解 (1) 夜間中学から考える
3. 社会教育の理解 (2) 3つのとらえ方
4. 社会教育に関わる職員と施設 (1) 全般・公民館
5. 社会教育に関わる職員と施設 (2) 図書館
6. 社会教育に関わる職員と施設 (3) 博物館
7. 社会教育を取り巻く環境の変化と課題
8. 環境問題と社会教育 (1) ロールプレイで体験
9. 環境問題と社会教育 (2) 実際にはどうなのかを学ぶ
10. 地域づくりと社会教育
11. 1. 貧困・社会的排除と社会教育
12. NPOと社会教育
13. 社会教育に関わる職員と施設 (4)
14. これまでの総括とまとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・ 毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・ 毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | | |
|------|-----|---|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 0% | |
| レポート | 50% | 社会教育についての基礎知識を理解したうえで、自分のことばで社会教育の内実が説明できるかどうかを評価します。 |

平常点 50% 毎回の提出課題から授業への参加度を評価します。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
 - プレゼンテーション
 - 実習、フィールドワーク
 - ✓ その他
 - 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

グループワークを多く行います。うち1回はロールプレイ形式とします。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- ・テキストは使用せず、授業の際にプリントなどを配布します。
- ・参考文献を示しますので、予習や復習などで活用してください。

小林繁・平川景子・片岡了編著『生涯学習概論 第3版』、エイデル研究所、2023年
鈴木敏正・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習論—改訂版 自分と世界を変える学び』「ESDでひらく未来」シリーズ、学文社、2023年
社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック第9版』、エイデル研究所、2017年

オフィスアワー

その他特記事項

資料等の配布は基本的にmanabaを使用して行う予定です。授業の進捗状況や受講者の興味関心により、授業計画やシラバスの順番は変更することがあります。教員への連絡は授業時やメールでお願いします。 imaki002u@chuo-u.ac.jp 岩松

参考URL

備考

科目名：教育思想史

担当教員：堤 優貴

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：金4

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N403

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:03:10 更新者：AD1331

更新日時：2024-01-05 16:49:34

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、教育思想史の基礎的な知識を復習しつつ、近代批判（あるいはポストモダニズム）以降の枠組みを用いて教育についての理解を深めていくことを目的としています。ルソーやフーコーといったフランス思想史の大物を主軸としつつも、幅広く教育思想史（研究）に影響を与えた思想や学説を取り上げていく予定です。教育思想史そのものを学ぶというよりも、教育思想史をどのように見るのかという（視点）を得ることを目指しています。そのため、前提として教育原理の基礎知識を身につけていることが好ましいですが、授業内でも近代教育思想史の復習を行う予定ですのでご安心ください。フーコーやデリダといったスター哲学者を扱う予定なので、幅広く、思想や哲学に興味がある方の受講も歓迎です（ただし、あくまで近代教育思想史の基礎を身につけることを前提としています）。

科目目的

教育思想史の方法について理解するとともに、現代の教育思想の歴史的基盤を相対化することができる。

到達目標

- 1) 教育思想史の意義と方法について理解している。
- 2) 現代の教育課題について教育思想史の方法で考察することができる。

授業計画と内容

- 第1回 インTRODダクション：「モダンとポストモダン」
- 第2回 アリエス『（子供）の誕生』
- 第3回 デリダ：声と文字
- 第4回 アレント1：「悪の凡庸さ」について
- 第5回 アレント2：『人間の条件』『教育の危機』
- 第6回 新教育運動：デューイとベルクソン
- 第7回 フロイト・ニーチェ：言語論的転回へ
- 第8回 ハイデガーとアレント：私と公共性
- 第9回 新教育以後の教育思想について
- 第10回 フーコー1『言葉と物』まで
- 第11回 フーコー2『監獄の誕生』以降
- 第12回 デリダとドゥルーズ：脱構築と生命
- 第13回 ランシエール『無知な教師』
- 第14回 ポストモダンの教育思想

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 0%
- レポート 70% 学期末レポート

平常点 30% 毎授業時に提出するリアクションペーパーの内容
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト：下司晶『ポストモダンの教育思想』勁草書房。
参考文献：教育思想史学会編『教育思想事典増補改訂版』勁草書房、2017年。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：教育課程論**担当教員：濱谷 佳奈**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：木2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N404

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:03:11 更新者：AA2232

更新日時：2024-01-08 22:28:44

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

学校における教育課程の理論、及び教育課程の一領域である「総合的な学習の時間」の実践について解説するとともに、実際に指導計画作成の演習を行う。

科目目的

学校における教育課程の意義と編成方法、カリキュラム・マネジメントの意義について講義を通して理解するとともに、教育課程の一領域である「総合的な学習の時間」の指導計画作成の演習を通してカリキュラム開発の基礎的能力を養う。

到達目標

学校の教育課程意義や編成方法について理解し、「総合的な学習の時間」の指導計画が作成できるようになる。

授業計画と内容

- 第1回：オリエンテーションー教育課程とは何か
- 第2回：教育課程編成の原理
- 第3回：学習指導要領の変遷と特色ー経験主義・児童中心主義の時代
- 第4回：学習指導要領の変遷と特色ー系統主義カリキュラムからゆとりの時代へ
- 第5回：新学習指導要領と資質・能力の育成
- 第6回：非認知能力の育成
- 第7回：ポスト世俗化社会における宗教教育
- 第8回：市民性の育成
- 第9回：学校におけるカリキュラム・マネジメント
- 第10回：「総合的な学習の時間」の意義と先駆的实践
- 第11回：「総合的な学習の時間」の指導計画の作成の演習
- 第12回：作成した「総合的な学習の時間」の指導計画の発表と相互検討
- 第13回：学校教育の多様化と教育課程
- 第14回：まとめー教育課程改革と未来の学校

【注意】

テーマの順番を入れ替える可能性があります。また、ひとつのテーマを複数回かけて行う場合があります。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

日ごろから国内外の教育課程に関連する新聞記事や書籍を読んでおくこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | | |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 0% | |
| レポート | 30% | 指定されたテーマについて最終レポートを提出する。テーマの理解ができているか。自己の考察の表現ができてきているか。資料を丁寧に読み取れているかを基準とする。 ※manabaにてデータ提出する。 |

- 平常点 30% 毎回のリアクション・ペーパーおよび授業での発表・ディスカッションへの参加を評価する。
- その他 40% ・「総合的な学習（探究）の時間」の指導計画の作成内容の完成度とオリジナリティを評価する。
※manabaにてデータ提出する。

成績評価の方法・基準(備考)

・すべての課題の評価を合計して60点以上が合格となります。ただし、「レポート」「平常点」「その他」の項目で、いずれか1つでも0点があった場合は、不合格となります。欠席回数が5回以上の場合は平常点が0点となります。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
 - ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
 - ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

「総合的な学習の時間」の指導計画の作成

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaを用いる。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

<テキスト>
特に指定しない。適宜プリント資料を配布する。

- <参考文献>
1. 奈須正裕・坂野慎二編著『教育課程編成論』玉川大学出版部、2019年
 2. 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』東山書房、2018年

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 特別支援教育論

担当教員： 内藤 千尋

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 月1

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-ED2-N405

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:03:11 更新者： AD1443

更新日時： 2024-01-03 15:51:44

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本授業では、特別支援教育および特別ニーズ教育の現状と課題について、対象の理解、本人・当事者のニーズに沿った教育や支援等に関する講義を行います。本授業を通して、各種障害に限らず特別な教育的支援を必要とする子どもの教育的ニーズを把握し、教育・支援のあり方を検討します。

科目目的

特別支援教育・特別ニーズ教育に必要な障害特性等の理解・支援方法を学びます

到達目標

発達障害や特別な教育的支援を必要とする子どもと教育・支援について、基礎的な知識や当事者の支援ニーズに基づく教育・支援を理解することを目標とします。

授業計画と内容

- 1 特別の支援を必要とする子どもと特別支援教育・特別ニーズ教育【授業概要説明】
- 2 子どもの発達と障害
- 3 特別支援教育制度の変遷
- 4 障害の理解と教育① 知的障害
- 5 障害の理解と教育② 発達障害（1）
- 6 障害の理解と教育③ 発達障害（2）
- 7 発達上の困難・課題と支援 感覚情報統合の困難・身体症状
- 8 学校教育における特別支援教育の役割と課題① 特別支援学校・特別支援学級
- 9 学校教育における特別支援教育の役割と課題② 通級による指導・通常学級
- 10 学校教育における特別支援教育の役割と課題③ 保護者支援／教育的支援と福祉的支援の連携
- 11 特別支援教育・特別ニーズ教育に係る諸課題① 子どもの被虐待等の発達困難と支援
- 12 特別支援教育・特別ニーズ教育に係る諸課題② 子ども・若者の「非行」等の発達困難と支援
- 13 諸外国における特別支援教育・特別ニーズ教育
- 14 特別支援教育・特別ニーズ教育の課題【まとめ】

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

指定したレジメ等を事前に読み込む。授業後には復習、指示された課題に取り組む。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | |
|------|------------------|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 0% |
| レポート | 80% 期末レポートの提出と内容 |
| 平常点 | 20% 授業への参加・受講態度 |
| その他 | 0% |

成績評価の方法・基準(備考)

成績評価の要件：3分の2以上の出席（授業参加）があること

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

特に定めない。講義において必要な資料等を提示する
参考書 高橋智・加瀬進監修／日本特別ニーズ教育学会編 『現代の特別ニーズ教育』 文理閣 2020年
そのほか参考となる文献・資料等については講義において随時紹介する

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 教育法**担当教員： 葛西 耕介**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限： 金2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー： LE-ED2-N406

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:03:12 更新者： AD0971

更新日時： 2024-01-10 18:05:03

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

「教育法」(Education Law)とは、教育制度に関する固有の法である。そして教育法学は、教育に関わって、人格的生存を不可能にする国家権力の介入を禁じ、逆に人格的生存を可能にする国家権力の積極的発動を促す法規範を追究する学問領域である。本授業は、こうした教育法・教育法学を、法学部ではなく、文学部で開講されているという点を意識しつつ、その全体像をつかもうとするものである。

科目目的

本授業は、教育法令の理解とともに、特殊法としての教育法の基本的な論点について、これまでどのような(裁)判例・学説が蓄積され、現在どのような到達点にあるのかを理解することを通じて、教育法的視角から事象を分析できるようになることを目的とする。

到達目標

1. 教育法の基礎概念について、具体的場面とともに説明できる
2. ケースに応じて、問われている基本原理や基本的論点を特定できる
3. 基本的論点について、(裁)判例・学説の到達点を踏まえたうえで、自身の立場を根拠とともに説明できる

授業計画と内容

- 1 ガイダンスー教育法の全体像
- 2 旭川学力テスト事件最高裁判決 (1) 概要をつかむ
- 3 旭川学力テスト事件最高裁判決 (2) 精読する
- 4 教育法の基本原理 (1) 子どもの学習権、および (2) 子どもの教育を受ける権利と国の学校制度整備義務
- 5 教育法の基本原理 (3) 親や子どもの公教育内容の(一部)拒否権
- 6 教育法の基本原理 (4) 親や子どもの参加権と教師の教育の自由
- 7 中間まとめ
- 8 自主性擁護的教育法 (1) 国の教育内容統制権能の限界
- 9 自主性擁護的教育法 (2) 教師の身分の特殊性
- 10 条件整備的教育法 (1) 国の教育制度整備義務と条件整備基準、財政移転制度
- 11 条件整備的教育法 (2) 教育行政の一般行政からの独立
- 12 教育是正的教育法 (1) 校則裁判、体罰裁判
- 13 教育是正的教育法 (2) いじめ裁判、学校事故裁判
- 14 まとめー再び教育法の全体像

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業前には、事前に示された検討事例・(裁)判例、課題文献の準備をすること。
授業後には、コメントペーパーを提出すること。また、参考文献やウェブサイトにあたること。
授業前の準備の方に時間を割いてほしい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | |
|------|-------------------------|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 0% |
| レポート | 60% 事前に評価基準と、レポートの例を示す。 |
| 平常点 | 40% コメントペーパーの提出。 |
| その他 | 0% |

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

コメントペーパーへの応答を行う。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

小グループに分けたうえでのディスカッションをほぼ毎回行う。

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト：
特に使用せず、スライド資料等を配布する。
参考文献：
授業内で示すが、さしあたり、以下の文献。
姉崎洋一ほか『ガイドブック教育法〔改訂版〕』（三省堂、2015年）
荒牧重人ほか編『新基本法コンメンタール 教育関係法』（日本評論社、2015年）
葛西耕介『学校運営と父母参加：対抗する《公共性》と学説の展開』（東京大学出版会、2023年）
勝野正章ほか編集『教育小六法 2023年版』（学陽書房、2023年）
兼子仁『教育法（新版）』（有斐閣、1978年）
兼子仁編『教育判例百選（第三版）』（有斐閣、1992年）
日本教育法学会編『コンメンタール教育基本法』（学陽書房、2021年）
日本教育法学会編『現代教育法の争点』（法律文化社、2014年）
堀尾輝久『現代教育の思想と構造』（岩波書店、1971年）
日本教育法学会編『日本教育法学会年報』（有斐閣）各号
『季刊教育法』（エイデル研究所）各巻

オフィスアワー

その他特記事項

学問は、先行する学的営為の蓄積に己の小ささを自覚して、その蓄積に謙虚に耳を傾ける作業である。自身の経験を基礎に「自由」に語られがちな教育学とは異なり、法学にはそうした作法がより一層求められる。受講に際して教育学の深い知識も法学の深い知識も求めないが、特殊法としての教育法を学ぶことは、法学を学ぶ者にとっては「法」の理解を「教育」を媒介にしてより深め、教育学を学ぶ者にとっては「(学校)教育」の理解を「法」を媒介にしてより深めるであろう。なお、憲法学ないし法学概論を履修していることが望ましい。

参考URL

https://researchmap.jp/kasai_kosuke/

備考

科目名： 国際比較教育学

担当教員： 島埜内 恵

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 金2

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-ED2-N407

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:03:12 更新者： AD1710

更新日時： 2024-01-08 18:06:04

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業の大きな目的は、「教育」、「学校」、「子ども」について考えることです。そしてそのための手法のひとつとして、「比較」を用います。

例えば「日本の学校について説明してください。」と求められたとき、何について、どのように説明するでしょうか。小学校は6年間であり中学校は3年間である、授業では教科書を使う、その教科書は自分のものである、時間割は教員が決める、自分で配膳して給食を食べる、掃除の時間がある、集団登校をする、学期の始まりに始業式がある等、説明するための要素がいくつかわかるか考えられるかもしれません。

これらは、日本で学校に通い、そこで教育を受けてきた人にとっては「当たり前」のものとして前提とされがちですが、諸外国・地域に目を向けてみると、これらのことは必ずしも「当たり前」とは限りません。このことを踏まえると、日本の「教育」、「学校」、「子ども」にまつわる事象を対象化して考えていくにあたって、諸外国・地域の「教育」、「学校」、「子ども」にまつわる事象を鏡にすることや、その中に日本の状況を位置づけて理解することは、有効な方法のひとつといえます。

本授業では、比較という手法を通して日本の状況や各自の教育経験、学校経験を相対化することで、受講生自身が「教育」、「学校」、「子ども」について考えるための視野を広げ、思考を深めることを目指します。

なお、各回の授業で課題（コメントシートの作成・提出）を課しますので、毎回作成・提出してください。

科目目的

- ①比較や比較教育に関する基本的な知識を学習し、それをもとに日本の状況や各自の教育経験、学校経験を相対化する。
- ②①をもとに、「教育」、「学校」、「子ども」に関するさまざまな事象について、社会の一構成員、あるいは教育に関わる当事者として自分の思考や意見を深めていく。

以上の目的は、文学部のディプロマポリシーの中でも、特に「人を読み解く力」、「複眼的に思考し、多様な社会に柔軟に対応することができる」、「相手の考えを理解することができる」との関連性の中に位置づくものといえます。

到達目標

- ①比較や比較教育に関する基本的な知識を身につけ、それをもとに日本の状況や自分の教育経験、学校経験を相対化できるようになる。
- ②①をもとに、「教育」、「学校」、「子ども」に関するさまざまな事象について、社会の一構成員、あるいは教育に関わる当事者として思考し、適切に表明できるようになる。

授業計画と内容

- 第1回 オリエンテーション（講義の進め方、到達目標、評価等の確認）
比較教育学を学ぶための前提
- 第2回 比較という手法
比較することの意義
比較の限界性
- 第3回 世界の学校類型
学校系統図と義務教育制度
- 第4回 フランスの教育制度や教育政策（1）共和国の理念、「共和国の学校」の「最高の使命」
- 第5回 フランスの教育制度や教育政策（2）教育内容、学校を構成するいくつかの要素
- 第6回 国際機関と日本
「PISA型学力」
「リテラシー」
「コンピテンシー」
- 第7回 PIAAC
TALIS
「教員の働き方」
- 第8回 国家と言語

- 第9回 外国につながる子どもの教育
複言語主義
外国語教育
- 第10回 「オルタナティブな教育」の場
- 第11回 「男女平等」
- 第12回 教育格差
貧困
- 第13回 これまでの学校とこれからの学校
比較し、相対化することの重要性
- 第14回 到達度の確認
総括

※必要に応じて順番を入れ替える可能性があります。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- ・配布資料等を読み込み、各回の学修事項について振り返ってください。
- ・授業時間外での課題作成が指示された場合は、指定された期日までに課題を作成の上、提出してください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | | |
|------|-----|---|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 50% | 授業での学修事項に関する理解度を中心に確認します。 |
| レポート | 0% | |
| 平常点 | 50% | 毎回の授業で、原則としてその回のテーマに即した課題(コメントシートの作成・提出)を課します。その課題の提出状況と内容の適切さ(お題にきちんと応答して考察しているか等)を基準とします。 |
| その他 | 0% | |

成績評価の方法・基準(備考)

毎回の課題に関する詳細や、受験資格を含めた試験の詳細については、初回授業にてお示しします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

回によって、ペアやグループでの意見交換や議論、コメントシートの読み合いやコメント付けをしていただきます。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

課題の提出や関連情報の提示等にかかり、manabaを使用して進める可能性があります。

実務経験のある教員による授業

はい
✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、授業担当者が作成する配布資料をもとに授業を進めます。
参考文献は以下の通りです。これ以外の資料等については、必要に応じて授業内でお示しします。

- ・ 国立教育政策研究所（2014）『教員環境の国際比較』、明石書店。
- ・ ドミニック・グルーほか（2011）『比較教育／比較教育に関する著作の草案と予備的見解』、文教大学出版事業部。
- ・ 二宮皓（2013）『新版 世界の学校—教育制度から日常の学校風景まで』、学事出版。
- ・ マークブレイほか（2011）『比較教育研究—何をどう比較するか—』、上智大学出版。
- ・ 文部科学省『諸外国の教育動向』（各年度版）明石書店。
- ・ ロバート・F. アーノブほか（2014）『21世紀の比較教育学—グローバルとローカルの弁証法—』福村出版。
- ・ 山田 肖子・森下 稔（2013）『比較教育学の地平を拓く』、東信堂。

オフィスパワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：教育学特講(1)**担当教員：井狩 芳子**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：木4

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N408

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:03:13 更新者：XEC437

更新日時：2024-01-30 21:04:09

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

わが国に在住する未就学児のほぼ全ての子どもは、幼稚園・保育所・認定こども園・児童福祉施設で保育を受ける。子ども達の発達する姿を知ったうえで、その「保育」について概要や特徴、制度上の位置付けを学ぶ。そして、わが国の「保育」の基本原則である、「遊びの保障」「環境の保障」「個に応じた生活の保障」について、映像資料等も活用しながら理解を深める。加えて、保育園や幼保連携型こども園において、業務の一つとして位置付けられている「子育て(の)支援/保護者支援」についても、トピックスを活用して紹介したい。以上の内容について、映像視聴や演習授業をとおして理解促進に努め、「『保育』とは何か」を考える。

科目目的

就学前の子ども達の「今の姿」についてトピック的に取り上げながら、就学前子どもたちの姿とその育ちを支える保育制度や仕組みを理解する。さらに、保育者や園の社会的役割について、その実践的な「営み」がどのように実施されているのかを、ワーク等も経験しながら理解を深める。

到達目標

受講者は、まず最初に就学前の子ども達の心身の特徴(環境に圍繞されざるを得ない存在としての「子ども」・「育つ」当事者としての「子ども」)を知り、当事者である子どもについて理解する。中盤には、その支え手である保育者、保育実践についての理解も深めながら、園の社会的役割、地域や他機関との連携の視点にも着目する。終盤には、自分が子どもたちをどのように支援することができるのか、考えを深められるようになることを目指し、これを到達目標とする。

授業計画と内容

- 第1回 ①「乳幼児期の子ども理解 ～未熟から成熟へ～」と保育 ②「教育・保育」における支配性についての認識
 第2回 ①子どもの生活と子どもの権利条約 ～保育の役割、保育者の役割、保護者連携(支援)とは～
 第3回 ①制度としての「保育所、幼稚園、認定こども園」 ②保育内容(5領域) ③10の姿
 第4回 ①わが国の保育の基本原則 遊びによる保育・環境による保育・個と集団の保育 ②保幼小⇔中学校⇔高等学校⇔大学⇔社会の連携 ③保護者支援 ④地域連携 ⑤SDGS ⑥冒険遊び場
 第5回 生きていく土台の保障と保育 ①五感を耕す
 第6回 生きていく土台の保障と保育 ②恒温の獲得 ③生活リズムの獲得
 第7回 生きていく土台の保障と保育 ④運動発達の機会の保障と獲得/空間認知力の獲得
 第8回 生きていく土台の保障と保育 ⑤脳：概念形成と言葉/認知能力と非認知的能力 *支援を要する子どもについて
 第9回 生きていく土台の保障と保育 ⑥基本的生活習慣の習得
 第10回 子ども理解と支援・支援の概念関係 演習：お散歩(あそび)マップ作成
 ①「子ども理解と省察」 ②「子ども理解」の手法・多種多角的な視点
 ③文字・絵・間・写真・五感活用・手書き・PCの有効性 ④構想・ねらい・手だて
 第11回 お散歩(あそび)マップ ⑤鑑賞と講評
 第12回 子ども理解と支援・支援の概念関係 演習：運動あそび体験
 第13回 子ども理解と支援・支援の概念関係 演習：食育の年間プログラム作成
 第14回 まとめ ～「保育」とは何か～、到達内容の確認

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業では、授業時にVTR等の視覚的教材や授業記録・保育記録等のドキュメントを用いて「子ども理解」や「保育(実践)」を巡る課題等をトピックとして取り上げ進める場合もあれば、いわゆる反転授業等を想定して、授業で扱う上記資料等(文献や新聞記事等を含む)について読み込み、課題を作成の上授業に臨むことが求められる場合もある。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | | |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 20% | 講義内容を理解したうえで、それを基に自分の考えを理論的に表現できているのかを評価します。 |
| レポート | 60% | 基本的に毎回の講義後に課すレポートで、講義内容を理解して課題を把握したうえで、レポートの体裁で自分の考えを表現できているかを評価します。 |
| 平常点 | 20% | 講義への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。 |
| その他 | 0% | |

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）

- ✓ 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
- ✓ 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

限定したテキストは使用しない。各回に必要なレジュメや資料を配付し、適宜参考文献を紹介します。

参考文献その1：「『発達障害』と間違われる子どもたち」/成田奈緒子著/青春書房

参考文献その2：保育所保育指針/厚生労働省、幼稚園教育要領/文部科学省、幼保連携型認定こども園教育・保育要領/内閣府・文部科学省・厚生労働省

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

科目名：教育学特講(2)**担当教員：森 一平**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：金2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N409

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:03:13 更新者：AD0676

更新日時：2024-01-05 08:29:37

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

近代社会において教育の中心は学校教育にあり、学校教育の中心は「授業」にある。したがって授業について知り、また改善していくことは、教育について知り、改善していくことと通底する。そしてその営みの中心はなんといっても、日本の優れた教師文化たる「授業研究」に存する。そしてまた授業研究は「人びとの実践の研究」に他ならないから、授業研究のありようを理解することは、私たちの身の回りにある様々な日常実践を理解し、改善することとも根本的な部分でつながっている。

そこで本科目では「授業研究」をテーマとして取り上げ、大きく2つのパートによって講義を構成する。まず、①著名な授業研究の方法のいくつかを、それらをめぐる論争史にそくして複数取り上げることにより、授業研究のバリエーションを把握するとともに「授業を見て何事かコメントする」というだけの授業研究観を上書きし、「実践研究」の深みを知ってもらう。そのうえで次に、②エスノメソドロジー・会話分析という社会学上の立場から授業を観察してみることを通し、授業というコミュニケーションの構造を把握するとともに、授業という限られた実践のみならず様々な領域のコミュニケーションを分析的に観察する能力の基礎を養うことをめざす。

科目目的

日本の教員／教育学文化の「遺産」たる授業研究の中心に位置づくような立場を複数理解することを通して、日本の教育のありようの重要な一側面を知り、またエスノメソドロジー・会話分析の立場からの授業研究を体験的に学修することで、広くコミュニケーション現象一般の分析能力を養うことを目指します。

到達目標

- ① 授業研究をめぐる複数の立場について、その概要・意義・限界をそれぞれ説明できる。
- ② ①を踏まえたうえで、エスノメソドロジー・会話分析という立場からの授業研究の特殊性と意義を説明できる。
- ③ エスノメソドロジー・会話分析の立場から、授業のコミュニケーション構造を読み解くことができる。

授業計画と内容

- 第1回オリエンテーション：授業研究の全体像
- 第2回斎藤喜博と島小の授業研究
- 第3回出口論争(1)：「ゆさぶり」と「正しさ」
- 第4回出口論争(2)：「名人芸」と「法則化」
- 第5回ビデオを用いた授業研究(1)：授業カンファレンス
- 第6回ビデオを用いた授業研究(2)：ストップモーション方式
- 第7回コミュニケーションとしての授業(1)：エスノメソドロジー・会話分析の視点
- 第8回コミュニケーションとしての授業(2)：発言の順番交替組織について
- 第9回作業課題(1)：発言の順番交替の視点から授業を読み解く
- 第10回コミュニケーションとしての授業(3)：行為連鎖の組織について
- 第11回作業課題(2)：行為連鎖の視点から授業を読み解く
- 第12回コミュニケーションとしての授業(4)：トラブルの修復・誤りの訂正の組織について
- 第13回作業課題(3)：修復・訂正の視点から授業を読み解く
- 第14回おわりに：本講義における学習内容の振り返りとその応用可能性について

(注：上記計画は、受講者の学習状況や問題関心に応じて変更することがあります。)

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・ 毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | | |
|------|-----|---|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 0% | |
| レポート | 50% | 実際の授業事例の分析レポートを最終課題として課し、講義の理解度や分析の妥当性といった観点で評価します。 |
| 平常点 | 50% | 毎回の講義を踏まえて取り組んでもらう課題の合計得点に基づき評価します。 |
| その他 | 0% | |

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ✓ ディスカッション、ディベート
 - ✓ グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- ✓ タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaを通して、講義資料の配布や課題の提示を行います。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは特に指定しません。毎回の講義でレジュメや資料を配布し、また参考文献を提示します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：教育学特講(3)**担当教員：河野 桃子**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：水1

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N410

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:02:07 更新者：XEC433

更新日時：2024-01-09 11:04:17

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、R. シュタイナー (Rudolf Steiner 1861-1925) によって提唱されたシュタイナー教育 (Waldorfpädagogik) の思想と実践について、背景となる人智学思想や、同時代の新教育運動等を参照しながら学んでいきます。シュタイナー教育については、しばしばきわめて特異な実践であるかのような紹介がなされますが、シュタイナーの哲学的な著作や同時代人に共有されていた思想との関連のなかで検討することで、一見、「風変わり」と見える実践の奥の必然性が見えてきます。本講義では、シュタイナー教育を、ステレオタイプ的なイメージから距離をとってさまざまな角度から考察し、そこから、シュタイナー教育に限定されない教育一般について得られる示唆についても探究していきます。

科目目的

シュタイナー教育の思想と実践について、視聴覚資料や体験活動も適宜取り入れながら、具体的なイメージをもって理解できるようになること。また、その理解を、人智学や同時代の教育思想と関連づけることで、多角的に深めていくこと。

到達目標

シュタイナー教育の思想と実践について、さまざまな教育思想や歴史的背景と関連づけることで、ステレオタイプのイメージを離れて理解できるようになります。また、過去の教育思想や実践を、自身や他の受講生の経験や感覚と照らし合わせながら吟味し、現在の教育への示唆を得られるようになります。

授業計画と内容

- 第 1 講 オリエンテーション—シュタイナー教育とは
- 第 2 講 幼児期の教育
- 第 3 講 にじみ絵・ぬらし絵
- 第 4 講 児童期の教育
- 第 5 講 フォルメン線描と想像力の働き
- 第 6 講 気質論と十二感覚論
- 第 7 講 権威と自由—思春期の教育へ
- 第 8 講 芸術と教育
- 第 9 講 スピリチュアリティと教育
- 第 10 講 健康と教育
- 第 11 講 社会有機体三分節化論
- 第 12 講 シュタイナー教育をめぐる議論
- 第 13 講 シュタイナー前期思想と後期思想の連続／非連続
- 第 14 講 総括・まとめ—「自由への教育」としてのシュタイナー教育

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回の授業で提示する参考文献から関心をもったものを読み、期末レポートの作成に役立てること。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週 1 回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1 週間あたり 4 時間の学修を基本とします。
- ・毎週 2 回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1 週間あたり 8 時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)

中間試験 0%

| | | |
|------|-----|--|
| 期末試験 | 0% | |
| レポート | 50% | 期末レポートでは、提示された問いを理解した上で、その問いに対する応答を論理的に書いているかどうかを評価します。 |
| 平常点 | 50% | 毎回のリフレクションペーパーでは、授業内容や他の受講生の意見を踏まえた上で、自身の考えを書けているかどうかを評価します。 |
| その他 | 0% | |

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

各回のリフレクションペーパーの内容からいくつかピックアップし、次の授業時にクラス全体で共有した上で解説を行います。(ペーパーに書くコメントについては「公開不可」を選択することも可能です。) 質問に対する応答もその時間に行います。授業内で、期末レポート作成のためのポイントを提示します。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業の内容に関連する問いについてのグループワークを行い、その成果をクラス全体で共有、考察します。適宜、授業テーマに関わる体験活動を行います。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用しません。
毎回のレジュメ等は、授業時に配布します。
参考文献については、レジュメ上で提示します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：教育学特講(4)

担当教員：堀川 修平

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：月2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N411

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:02:07 更新者：AD1727

更新日時：2024-02-03 19:35:47

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

私たちの身のまわりに存在しているジェンダー／セクシュアリティ問題について、じぶんごととして捉えることができる力、そしてそれらを解決するための力を養っていただきます。そのために、私たちを「種としてのヒトから人間としてのひと」へと育て養う「教育」（必ずしも、学校教育だけが教育ではありません）の可能性に着目しながら学びを深めていきたいと思えます。

【授業の概要】

1. ジェンダー／セクシュアリティといった〈性〉に関わる差別問題を反省的にとらえる契機を与え、省察的な意見をもてる内容とします。
2. 性の多様性、「らしさ」の強要、LGBT市場における包摂と排除といった現代的諸課題について、具体的ケースを示しながら検討をしていただきます。
3. 本授業担当教員の専門性である「教育（人間形成）とジェンダー・セクシュアリティ」という観点から授業を深めます。
4. 本授業は原則、個人ワーク・グループディスカッションを取り入れます。単に受動的に知識を吸収し、座っていればよい「座学」ではありません。
5. 積極的に教員と学生、学生同士での交流を行いますので、人権保障に関する意識のない学生には受講を控えていただきたいと思えます。

科目目的

この科目は、ジェンダー・セクシュアリティの観点から人間の多様性についての学識と思考力を修得することを目的としています。

到達目標

本授業の到達目標は以下の3点です。

- ・ジェンダー平等とは何かを歴史的な観点から理解することができる。
- ・ジェンダー平等実現のための教育の課題について理解し、学校におけるジェンダー平等の課題について考えることができる。
- ・ジェンダー／セクシュアリティに関する差別問題が身のまわりに存在することを理解できるよう、日常的な関心を形成し、意見を述べることができるようになる。

授業計画と内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 性教育とはなんだろう？（1）私たちは「性教育」を学んできたのか？
- 第3回 性教育とはなんだろう？（2）「包括的性教育」と「純潔教育」の違いとは？
- 第4回 グループディスカッション（1）どのような「性教育」を受けてきたのか？
- 第5回 ジェンダーの視点・性の多様性の視点（1）機会の平等・結果の平等とジェンダー
- 第6回 ジェンダーの視点・性の多様性の視点（2）「性の多様性」=LGBT？
- 第7回 グループディスカッション（2）重なる属性・重なる差別
- 第8回 噂とジェンダー・セクシュアリティ～「デマ」に抗する知識を身につけよう
- 第9回 「特権」と「社会的マイノリティ」～「性的少数者」は適切な表現なのか？
- 第10回 ジェンダーバッシング・性教育バッシングの歴史（1）「バッシング」とは何か？
- 第11回 ジェンダーバッシング・性教育バッシングの歴史（2）誰がバッシングを煽動する？
- 第12回 ジェンダーバッシング・性教育バッシングの歴史（3）バッシングに抵抗するための知
- 第13回 グループディスカッション（3）わたしたちが、今、始められることとは？
- 第14回 まとめ：「涓滴岩を穿つ」ために

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | | |
|------|-----|---|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 40% | ジェンダー・セクシュアリティ、包括的性教育についての学識を修得したかどうか、日本の性教育やジェンダー平等に関する課題を説明できるかどうか、を評価します。昨年度は、文献精読レポートや授業に関連する学習イベントへの参加レポートなどに取り組んでいただき5000字程度で論述してもらいました。今年度の受講者の理解度・学習深度に沿って課題内容を検討します。 |
| レポート | 60% | 毎授業後に提出する「学びと感想」を評価します。毎授業後に400～1200字程度のコメントシートをmanabaにて提出いただきます。また、数回小レポート（1200～2000字）を課します。 |
| 平常点 | 0% | |
| その他 | 0% | |

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件：出席率が70%に満たない者についてはE判定とします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL（課題解決型学習）
- ✓ 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- ✓ タブレット端末
その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

堀川修平『「日本に性教育はなかった」と言う前に：ブームとバッシングのあいだで考える』（柏書房、2023）を第3回授業までに準備しておいてください。
上記テキストの他、レジュメや補足資料等をネット上で配布します。各自持参ならびに管理をし、授業の際や、レポート作成に用いて下さい。

オフィスアワー

その他特記事項

この授業では「ジェンダー・セクシュアリティ平等の視点」を”社会におけるすべての人の（性）に関する抑圧の解放を目指す

ために、性の多様性を認め、性の差別や偏見から自由になること”と定義して、現代社会における「差別」問題について考えていきます。また、社会にすでに存在している差別に関する内容として、「暴力」や「生と死」に関わる内容を取り扱うことも前提としています。本授業ではあらゆる社会的マイノリティに対する差別は認めません。差別言動が行われた場合（コメントシート内、あるいは学生間でのディスカッション内など）は、退出ならびに受講の取りやめを求めることがあります。

授業では、皆さんに「じぶんごと」として社会問題を捉えてもらいたいと思います。ですので、「自説のみにこだわり、周りの人たちと対話するつもりのない方」や「この社会のあらゆる差別に関して敏感に捉えるつもりのない方」、「授業内でのあらゆる課題に取り組むつもりのない方」、「小難しい知識を暗記することのみに力を注ぎたい方」などもいらっしゃると思いますが、そのような自分をこの授業を通して変えるつもりのない方は、別の授業の受講やご自身の趣味の時間に使った方が有意義だと思います。本授業の受講を取りやめることを検討してください。

また積極的に教員と学生、学生同士の交流をしていただきますので、他の受講生の学習権の侵害がないように積極的に参加していただきたいと思ひます。選択科目の一つとして本授業は位置づいております。決して「楽単」の授業ではありませんので、楽をして単位を取りたい方の受講はおすすめしません。大学の授業にかぎらず、教育の場は、教育者と学習者とがともに場を作っていくものです。「お客様」として着座し、指示があったことだけ取り組む方の参加は望みません。

みなさん自身に、精一杯課題に取り組んでいただくなかで、半年間かけて「受けてみてよかった」と思っただけの授業にできるよう、こちらも尽力したいと思います。周りの学生の学習権の侵害、また教員の学習権の侵害にあたらないよう、上記の点を承知した上で受講をお願いします。

参考URL

<https://researchmap.jp/horikawa-shuheii>

備考